

令和5年度 自治区デジタル実証実験 中間報告

令和4年度から5年度にかけ、区長会総務委員会と豊田市（担当部署：地域振興部地域支援課）の共同研究として実施している自治区デジタル実証実験について、これまでの取組内容と今後の方向性を報告します。

1 実証実験の取組内容について（令和5年7月時点）

（1）令和4年度の取組

11月に市から浄水・美里地区の全自治区長へタブレット（iPad）が貸与されました。毎月タブレットの勉強会を行い、活用方法を検討してきました。各地区の特徴的な取組として、浄水地区では区民への情報発信、美里地区ではフォルダ整理を行いました。詳細は令和4年度総務委員会報告書（第1回総務委員会資料）を参照してください。

（2）令和5年度の取組

【浄】は浄水地区、【美】は美里地区の取組です。

日程	内容
令和5年4月	区長が交代する自治区でタブレットの使い方を含め業務の引継ぎ【浄】【美】 データ保存・共有（NAS）の勉強会【美】
5月	kintone（キントーン）を活用した工事申請書の試行運用開始【浄】【美】 あいち電子申請届出システムでの補助金申請の勉強会【美】
6月～7月	kintone 工事申請の勉強会【浄】【美】 あいち電子申請届出システムでの補助金申請の勉強会【美】 アプリ（LINE 公式アカウント）をつかった区民への情報発信【浄】 アプリ（LINE WORKS）をつかった必要な情報のフォルダ整理【美】

（3）kintone について

- 年間2,000件超の申請がある「工事申請書」は、自治区が支所または地域支援課へ提出した後、工事担当課に依頼されます。現在、自治区の申請書提出方法は、紙またはインターネット（あいち電子申請届出システム）としています。
- この工事申請書の一連の流れについて、令和6年度からインターネットでの申請をあいち電子申請届出システムに代えて、kintone（キントーン）というシステムで運用する予定です。
- kintone（キントーン）をより使いやすいシステムにするため、浄水・美里地区で試行運用をしながら、改善を進めています。

<kintone を使ってみた地区の声>

- いつでも工事申請書を提出できる
- 操作が簡単（あいち電子申請届出システムとの比較）
- 工事申請書提出後の進捗確認がリアルタイムで可能

2 これまでの検証結果

（1）成果

1 支所・区長会事務局とのやり取り

- アプリ（LINE WORKS）を使い、いつでも・どこでも連絡を取ることができた
- 重要な連絡は電話で、軽易なやり取りはアプリで、と便利に使い分けることができた
- kintone やあいち電子申請届出システムを使った電子申請ができた

2 他の区長とのやり取り

- アプリ（LINE WORKS）を使い、自治区内の困りごとなど気軽にやり取りをしたり、会議前に資料共有を行ったりして、自治区間の連携が高まった

3 自治区内のやり取り

- アプリ（LINE 公式アカウント）を使い、区民へ地域情報や緊急連絡等の情報発信を行った
- アプリ（Microsoft）のクラウド機能を使い、自治区内役員と資料共有を行った

（2）自治区でのタブレット使用について

- パソコンと操作方法が異なり使いづらい
- スマホを既に持っている、かつ重いので持ち運ばない
- 使い慣れるまでに時間がかかる区長が多い

3 今後の方向性

<令和3年度に掲げた目指す地域の姿>

- 特定の個人や団体が担うのではなく、多様な個人や団体が主体となる地域活動
- 地域住民が地域のことに関心をもち、よく知り、関わりやすい自治区活動
- 新しい技術や取組による、効率的・効果的な自治区運営
- 見直しや分担による、負担の少ない区長業務

実証実験により、自治区業務のデジタル化が、業務の効率化や負担軽減に効果があることがわかりました。この成果を踏まえ、上記を目指すにあたって各自治区がデジタル技術を活用することは有効であると判断し、**今後、自治区のデジタル化は進めるべき**と考えます。

デジタル化の具体的な方向性	方向性を実現するための対応方法 （豊田市への要望を含む）
デジタル化を活用したくてもできない自治区 …できない障壁を取り除きつつ、活用する自治区を徐々に増やしていく。ただし、デジタル化の強制はしない。	- デジタル機器の導入やランニングコスト等に対する支援制度が必要 - 活用ノウハウを身に付けるための支援等が必要
デジタル化を活用できる自治区 …率先して新しい活用方法等を進めてもらい、区長会内で横展開を図る。	- 率先して新しい活用方法を試すための支援制度が必要 - 横展開の場の設定が必要